



青森港の概要

青森港は、陸奥湾の湾奥に位置しており、かつて運航していた青函連絡船など、本州・北海道間の連絡拠点として重要な役割を担ってきました。

そのはじまりは古く、1625年、弘前藩主が江戸幕府より津軽から江戸へ米などを運ぶことを目的とした廻船を許可する連署奉書を拝領したことが青森港「開港の契機」とされ、その拠点となる新しい港町づくりが開始されました。

近年は、青函連絡船で有名な青森駅のリニューアル、青森ウォーターフロント活性化協議会の催して賑わう「青森駅前ビーチ」、「洋上風力発電の基地港湾化」など新たな取組が展開されています。

官民一体の青森開港400年記念プロジェクト

青森港は今年（2025年）、開港から400年を迎えます。青森市ではこれを記念するため官民一体となった「みなとまち・あおもり誕生400年実行委員会」を組織し、2025年、2026年にかけ、港湾を中心としたまちづくりや賑わい創出に取り組む記念プロジェクトを展開しています。

みなとまち・あおもり誕生400年
<https://minatomachi-aomori400th.jp/>

4月、市民400人が青森ベイブリッジから鮮やかな紙テープを投げ青函連絡船の出港風景を再現したキックオフイベントを皮切りに、7月の開港400年記念式典には大型帆船日本丸が寄港、8月のねぶた祭には開港をテーマに山車が出陣し多くの市民が青森開港400年を祝いました（写真）。



青森開港400年記念式典

引き続き「第16回みなとオアシスSea級グルメ全国大会inあおもり」や、青函連絡船を係留保存しているメモリアルシップ八甲田丸での市民劇団演劇「青森みなと400年ものがたり」の公開、鉄道企画展が開催されます。

加えて、海事振興連盟主催の全国会議「青森タウンミーティング」や日中韓の港湾関係者が集う国際会議「第25回北東アジア港湾シンポジウム」等の開催も盛り込まれ、まさに“みなとまち”を挙げた一大記念プロジェクトが進行中です。



ねぶた「みなとまち青森400歳 龍神とともに」作：福士裕朗

青森港新時代に向けて

青森開港400年を記念する2025年は、これからの港を展望する年でもあります。3月に策定した青森港長期構想で掲げた「洋上風力発電産業の一大拠点の形成」や「国際クルーズ拠点の形成」などの戦略は、実現に向け動き出しました。

前者では、基地港湾の指定を受けて以来、着実に事業が進捗し本年10月に基地港湾着工式典が開催される運びとなり、後者では、これまで30回台で推移していた年間寄港回数（東北最多）を、遂に40回台（2025年見込み）の大会に乗せるなど、これまでの取組が実を結び始めています。

市民とともに歩む青森港

「みなとまち・あおもり」の文化・伝統・歴史の継承を願う市民の思いが込められた青森開港400年記念プロジェクトで賑わう今、未来を展望するとき、青森港は、これからの時代も永く“みなとまち”として地域の賑わいを牽引し、日本と世界の繁栄に貢献するものと確信しています。